

---

# れいこ

抹茶小豆

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

れいこ

### 【Nコード】

N2146I

### 【作者名】

抹茶小豆

### 【あらすじ】

実話です。

ひよっとすると、タイトルでオチが読めてしまうかも…。

八月の強烈な熱気のおかげで、店は朝から大変な繁盛だった。この店は、『カフェ』というよりは『喫茶店』という形容がしっくりとくる。今ではもう珍しくなった昭和を彷彿とさせるレトロな内装であるのだが、かえってそんな雰囲気の人々の心を安らがせ、今では知る人ぞ知る隠れ家のような存在となっている。

この店のマスターと父親が旧知のため、彼女は『夏休みの間だけ』を条件に、この店でアルバイトをすることを引き受けることにした。肩にかかる髪を後ろでひとつに束ね、赤と白のボーダーのTシャツに、ジーンズ生地のスカーツ姿の彼女は、18歳という若さに満ち溢れ、化粧気はないが充分に魅力的であった。生来の性格ゆえか、きびきびと立ち働き、お客に対する愛想も良く、また客受けも良かった。

店の呼び鈴が心地よい音を立て、男がひとり入ってきた。優しげだが、どこかくたびれた印象のある初老の男だった。彼女が差し出したおしぼりで、気持ちよさそうにひとしきり顔を拭き終えると、その男は静かに彼女を見つめた。

「れいこ…」

彼女の動作がぎこちなく止まった。

その手からボールペンがこぼれ落ち、濁いた音を立てた。

れいこ…。

今日何度自分はその名前を呼ばれたらう…。

レイコとは、一体誰？

私と、そのレイコという人はそれほどまでに似ているのだろうか。様々な疑問が彼女の頭の中に浮かぶが、今は勤務中。仕事に集中しなければ、と彼女は自分に言い聞かせた。

「ご注文は？」

彼女は努めて冷静に、にこやかにその男に対応した。

「れいこ」

「いえ、ですからご注文を教えてください」

「れいこ」

その男はよほど思い入れがあるのか、『れいこ』『れいこ』と繰り返す。

とうとう彼女はぶち切れた。

「私はいこではありません！

美幸です！橋みゆき！！！」

彼女の甲高い金切り声が店内に響いた。

ごたいそくに、フルネームを名乗っている。

マスターがひとつ咳払いをする。

「あの…みゆきちゃん、

それって、『れいこ』じゃなくて

『冷コー』のこと。」

大阪の方言で『アイスコーヒー』って意味なんだよ」

それもまた、ある夏の日の思い出であった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2146i/>

---

れいこ

2011年5月14日13時07分発行